



更なる成長を目指して

日本航空株式会社 取締役専務執行役員 財務・経理本部長 菊山 英樹

この度は運輸部門においてディスクロージャー優良企業に再び選定して頂き、大変光栄に存じます。これも日頃の皆さまからのご支援の賜物です。厚くお礼申し上げます。

当社は、「2017-2020 年度 JAL グループ中期経営計画」およびそのローリングプランにおいて、私たちの目指す将来の姿である「JAL Vision」と、その姿を具体的・定量的に表した「グランドデザイン」を公表しております。その中で、売上高 2 兆円、営業利益 2,500 億円、時価総額 3 兆円という定量目標を掲げました。

2020 年に予定されている羽田空港・成田空港の首都圏空港機能強化は、当社にとって大きなビジネスチャンスであり、現在策定中の新中期経営計画において、このビジネスチャンスを最大限活かし、「グランドデザイン」の達成に向けてのマイルストーンを皆さまにお示ししたいと考えております。また、市場関係者の皆さまとの双方向の対話を丁寧に行き、貴重なご意見を真摯に受け止め、企業価値の向上に向け努力してまいります。

これまで、経営資源の配分については、市場関係者からの貴重なご意見を参考にしてまいりましたが、これからは強固な財務体質と高い資本効率を両立しつつ、将来の成長に向けた投資への資源配分を重点的に行うなど、戦略的な経営資源配分を行うことにより企業価値を向上させてまいります。

経営の最重要課題の一つである株主還元方針については、株主資本総還元率を概ね 3% 以上とするよう努め、安定的かつ予測可能性

の高い配当を実現するとともに、機動的な自己株式の取得により、総還元性向の目標を概ね 35%~50% 程度といたします。

当社では、業務を行う上で遵守すべき行動指針として、行動規範「社会への約束」を制定しました。この行動規範に基づき、日々の業務を通じて SDGs の達成や社会への貢献にもつながっていきます。

市場関係者の皆さまとの対話の基礎となる情報開示の充実は極めて重要な経営課題と位置付けており、皆さまとマネジメント層との直接対話の機会を可能な限り確保することに努めており、その内容を都度、取締役会へフィードバックし、大変有意義な議論がなされております。本年は、CEO・CFO スモールミーティングの実施に加え、3 月には「IR Day」を開催し、より多くの経営幹部と投資家・アナリストの皆さまが直接対話出来る機会を大幅に増やしました。皆さまからのご意見・ご指摘は、当社にとっても大変良い刺激となり、貴重な機会となりました。

以上、安定性と成長を両立した航空会社を目指し、高い収益性と強固な財務安定性を保持しつつ、企業価値向上のために戦略的な経営資源配分を行うことで、過去の反省を活かしつつ、お客さま、株主、社会、社員など JAL グループのステークホルダーとの共生を図っていきます。

今後も、皆さまとのより良い対話の実現に向けて、情報開示の充実と質の向上に努めてまいりますので、引き続きご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。